

平成 25 年度第 3 回協働クロストーク！開催報告

- 1 日 時** 平成 25 年 7 月 27 日（土） 15：00～18：30
- 2 場 所** 道の駅夕陽が丘そとめ レストラン
- 3 テーマ** 道の駅夕陽が丘そとめから外海の活性化を！
- 4 参加者** 26 名（市民側 16 人、行政側 10 人。男性 13 人、女性 13 人）
外海ツーリズム協議会 平則子
外海文化愛好会 松川隆治、松川幸子、山口英一
外海まちづくり協議会神浦地区会 松岡均
NPO 法人 NPO 夕陽が丘そとめ 平宣義、林田伸一郎
フェルムド外海 日宇スギノ、江口洋子
市民力推進委員 井石八千代、兼子真美
長崎大学経済学部西村ゼミ 丹羽雄一、大園志保、古田瑞歩
地域コミュニティ推進室 篠崎桂子、橋田修平
ながさきの食推進室 高橋秀子、中村哲也、山口裕彦
指定管理者（JA） 中島宏史、松崎健二、川上サツ子
市民協働推進室 原田宏子、本庄祐子、生駒太一、吉岡利章
- 5 狙い・目標** （1）道の駅夕陽が丘そとめと外海地区の活性化についてのアイデア
フラッシュ
（2）市民同士、市民と行政の新たなつながりづくり
- 6 当日の流れ**
- | | |
|-------------|---|
| 15：00～15：20 | オープニング |
| 15：20～15：30 | 各グループ自己紹介（所属、名前、あなたの暑さ対策） |
| 15：30～15：50 | 担当課からの説明 |
| 15：50～16：20 | フリートーク
『担当課の説明を聞いてみて感じたこと』 |
| 16：20～16：30 | 休憩 |
| 16：30～17：40 | グループワーク
①『5年後を想定した「外海の活性化」の姿をそれぞれで想像して書いて共有しよう』
②『各自が考える活性化の中でこれからの道の駅夕陽が丘そとめの役割を考えて書いてみよう』 |

17:40~18:15	ポスターセッション 各グループで出した意見を見て回り、コメントを付せんで残す グループで一番ヒットしたものの発表
18:15~18:20	コーディネーター解説、ふりかえり
18:20~18:30	各グループでのふりかえり『参加してどうだったか』
18:30~18:33	クロージング

7 フリートーク

『担当課の説明を聞いてみて感じたこと』

現在の道の駅について

- ・営業時間の見直し
- ・曜日、時間帯でターゲットを変える
- ・バイキングにこだわらず、他の料理の提供も考える
- ・新商品のソフトクリームは夏にピッタリ
- ・レストランのシニア割引はいい
- ・PR不足
- ・事業者に対し、色々な提案をしても、なかなか通らない

外海らしさ・特性・特色を出す
戦略がない

付加価値をつけてオリジナルのものをつくる。
⇒包装紙をつけて贈り物として送る。
道の駅サポーター制
(月に1度野菜などを送る)

地域とのつながり

- ・地域の想いが伝わっていない
- ・他の観光資源や飲食店との**連携**
- ・地域住民はあまり利用していない
- ・地域とコミュニケーションをとり、
- ・住民と一緒にイベントなどを開催
- ・スタート時の熱が感じられない
- ・外海全体の取り組みになっていない

地域の高齢者向けの送迎
出津文化村と道の駅をつなぐ交通手段

ターゲット

- ・はっきりしていない
- ・絞ったほうがいい
- ・子ども、親子、シニア、**若者**、恋人
- ・アラサー・アラフォーのシングル
- ・曜日、時間帯でターゲットを変える

夕陽が丘そとめの方向性

元からあるもの・前提

- ・夕陽がきれい
- ・豊かな自然、眺望が Good!
- ・交通の便が不便

8 グループワーク

(1) 『自分たちが考える5年後の外海の活性化の姿』

住民

- ・色々な世代がいる
- ・**定住者増**
- ・役割や生きがいをもっている
- ・住民が外海の自慢をしている
- ・みんな笑顔であいさつ

外の人

- ・色々な世代が集まっている
- ・**交流人口増**（国内外・県内外）
- ・外海の魅力・らしさが伝わる
- ・ロコミを中心に認知度があがる
- ・「いやし」「ロマン」をテーマに穴場スポットになっている

魅力

- ・外海の魅力・らしさが外の人に伝わる
- ・「いやし」「ロマン」をテーマに穴場スポットになっている

産業

- ・物流が増える
- ・道の駅と商店街が連携し、買い物客でにぎわう
- ・**雇用**が生まれる
- ・6次産業の育成 名産品をつくり、工場をつくる
道の駅ならではの野菜がある
- ・生産者が元気

文化

世界遺産登録

- ・地域の伝統文化の伝承
- ・子どもが学ぶ場がある
- ・出津文化を中心にまちづくりが進む

・ここでトークするテーマでない

(2) 『活性化の中でこれからの道の駅夕陽が丘そとめの役割』

住民

- ・住民のたまり場
- ・話し合いの場（PTA など）
- ・住民と連携し、
外海を引っ張っていく
- ・就労の場

外の人

- ・**つなぐ場**
住民と観光客
生産者と消費者
- ・**物流の拠点**
- ・イベントを行う場
- ・**観光の拠点**
(**情報発信**・食事・交通・休憩)
- ・人気の直売所

- ・案内所、ガイドステーション
- ・教会群についての専門HP（観光ガイドと連携したもの）
- ・商品の**パッケージのデザイン**を変える
- ・**夕陽**に向かって愛をさけぶ、愛の鐘（恋人、結婚式、前撮り）
- ・サンセットロードをもっとPR⇒ライダーが集まる

指定管理者をやめ、駅長を公募する

9 参加者の感想・気づき

(1) 市民側

- ・まだまだ知識も浅い状態で学ぶことが多く、様々な立場の方が集まり、こんなこともあったのか！と思うような意見を聞き、共有することができて参加してよかった。
- ・本当にロマンチックなスポットにしたい！
- ・道の駅の本音の部分が十分にトークできなかったし、出ていなかったのが残念。
- ・外海の活性化については、外海地区まちづくり協議会でやろう。
- ・色々な人たちが外海のまちづくりについて話して、大変有意義な会だった。今後もぜひこのような会を開催してほしい。
- ・一つでも実現できるように地元でもがんばります。
- ・色々な活動をしている人が集まったが、こういう会では広がりのある視点を持たなければならない。今後も地元の人、よその人がまざりあって活性化につなげたい。
- ・外海のことを知ることができた。
- ・知らない人と知り合いになれてよかった。
- ・自分の想いを発表できた。
- ・各自の発想が多く聞けた。いくつか実現してほしい。
- ・あらためて外海の良さを再確認した。道の駅をぜひ情報発信拠点に。
- ・道の駅のこれからについて学ぶことができた。それぞれ良いアイデアが出た。外海の住民の一人として活動したいと思った。
- ・どうしても観光客目線になりがちだったが、地元の方の意見、気持ちも重要だと気付くことができた。
- ・これまで何回か利用したが、今日あらためて外海や道の駅について考えて、新しい視点に気づいたり、皆さんのアツイ気持ちを知ることができた。また来ます！
- ・外海、道の駅以外の方の意見がきけて大変有意義な時間だった。
- ・自分自身では考えつかないことも、いくつもあった。今後の自分たちの活動に生かしていければ。
- ・地元の方の実際の声や、ネットで調べてもわからないような外海の現状を知るいい機会になったし、若者にとっても魅力があるものはたくさんあるので、アピールしてほしい。
- ・みんなで考えればいいアイデアがたくさんでる。ただ、そのうち1つを選択すると違う1つのアイデアを捨てなくてはならない。割り切って優先順位をつけるしかない。
- ・色々な意見が出たので、ぜひ実現・実行し、結果報告を何年後かにしてほしい。

(2) 行政側

- ・道の駅の存在は地域の人にとって死活問題であることがわかった。管理者、行政ももっと当事者意識に立って議論して実現していく必要を強く感じた。
- ・非常に面白い意見をもらった。
- ・実際に道の駅や外海地区のまちづくりに関わっている人たちの生の熱い意見を聞いた。
- ・行政は内部でもっと連携をすすめていかねば。
- ・若い人のアイデアや外海の住民の現実的な課題まで貴重な意見をもらった。
- ・色々な立場の人から意見・アイデアをもらい、非常に参考になった。今後一生懸命がんばりたい。
- ・それぞれの話が、「へえ〜!」と思うことばかりで、とても勉強になった。
- ・外海地区、道の駅だけでなく、長崎の「食」の取り組みに活かすことができそう。
- ・道の駅に求めるものとして、「地元の住民の生活を支える役割」が出ていて、課題の大きさをあらためて感じた。
- ・参加者の率直な意見が聞いてよかった。すべての意見を実践することは困難だが、今後の運営の参考にしたい。

9 当日の様子

オープニング



グループワーク

写真なし

ポスターセッション後の発表



ふりかえり

